

「課題のリストより恵みのリストを」

イエズス会助祭 柴田 潔

暑さも少しずつ和らぐこの頃皆様いかがお過ごしですか？ 高円寺教会で奉仕するなかで感じてきたことを僭越ですが今回の巻頭言として書かせていただきます。

使徒書2：43～47には、信者の生活について美しく語られています。「信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」 私には、この初代教会の信者の生活と高円寺教会の共同体の姿が重なって見えます。確かに、教会内に気掛かりな点はあるでしょう。けれども課題や困難にばかり目を向けることは、神様の恵みがどこに働いているかを見失うことにもつながります。課題のリストよりも恵みのリストをまずつくることが大切です。私自身、司祭叙階の前の2年間を高円寺教会で実習させていただきこのことを実感しました。大学3年の時に洗礼を受け、卒業後すぐに日曜日勤務の仕事に就いた私は、教会がどのようなところかあまりよくわからず、司祭養成を受けながらも不安がありました。けれども、恵みが不安を上回りました。先に始めた聖書講座だけでなく、助祭に叙階された後も吉池神父、林神父はじめ皆さんから、さまざまな教会奉仕の機会をいただき、不安に感じていたことが体験を通して恵みに変わりました。特に、これまで関わりを持てなかった御岳山でのサマーキャンプはよき体験になりました。未知のことに足を踏み入れるには不安が付きまといます。しかし、神様は不安ではなく本当は恵みを与えようとされていることを教えてくれました。

日本社会は、不安を抱えた人たちであふれています。これからも、高円寺教会の皆さんが、恵みのうちに信者の生活を生きられますように。そして、一人でも多くの人々が救われる仲間に加わるようにとお祈りします。2年4ヶ月にわたり本当にお世話になりました。